

刈谷市議会議員 伊藤よしえ による刈谷の未来づくり提案誌

ORANGE PRESS

オレンジプレス Vol.2
2023年12月議会号

2023年
かりや、おもひで

令和5年12月議会 一般質問

預かる学童から育てる学童へ
地域のつながりで介護を支える
部活っていいよね、スポーツっていいよね

預かる学童から 育てる学童へ

子育て世帯の転出を食い止めるには

「保育園落ちた、日本××」という投稿が物議を醸し、待機児童問題に注目が集まったのが、2016年のことです。今年の春には、「学童落ちた」というハッシュタグでのSNS投稿が注目を浴び、学童クライシスについてのテレビ特集なども組まれました。言うまでもなく、共働き世帯が増加すると、放課後児童クラブ（学童）の利用ニーズは向上します。

待機児童ゼロに加え、預かり時間の拡大や祝日開設など、刈谷市の放課後児童クラブは年々サービスの向上が図られ、他市に誇れる部分も多くあります。一方で、子育て世帯の転出超過が続く刈谷市が、今後も持続的に発展していくために必要なものは、「地価は高いけど住みたい」と思ってもらえる「付加価値」だと考えます。

今回は放課後児童クラブと学校の連携にフォーカスし、預かることに留まらない、より質の高い保育や学びの機会提供について、質問しました。

放課後子ども教室があるじゃない

幸いなことに刈谷市では、学校と放課後児童クラブが隣接しています。学校には「放課後子ども教室」という体験型学習の機会がありますが、放課後児童クラブに通う子どもは、一部の教室しか参加できません。コロナの影響もあり、三密を避ける運用となっていました。

もっと柔軟に、クラブの児童も学校主催の放課後イベントに参加できるようにすれば、子供がより多く学びの機会を持てる。待機児童が出ないよう、受け入れ人数を増やすようなベースの取り組みに加え、右記のような付加価値の高いサービスの提供にも力を入れていくべきとの提案をしました。

子どもたちの放課後はどう進化する？

放課後子ども教室への、クラブ児童の参加については、学校と放課後児童クラブが連携して、スタッフで話し合いながら段階的に再開を始めていただいています。

今後の連携が、子供の成長機会の増加、育てる学童への転換の一步となることを期待します。

地域の つながりで 介護を支える

きっかけは街頭で聴いたヘルパーさんの声

ある日街頭活動を終えて帰ろうとしていたところ、「訪問介護のヘルパーです。話を聞いてもらえませんか？」と声をかけてくれた女性がいきました。その場で、生々しい職場実態を教えてくださいました。介護を取り巻く問題は多岐に亘り、国や県レベルで対策を打たねばならないことも多くありますが、地域の協力・助け合いがあれば解決できそうだな、と思ったのが「訪問サービス実施時の駐車場確保問題」です。

訪問サービスには駐車場が必須

訪問サービスは主に車で利用者宅に向かいますが、利用者宅に駐車場がない場合があります。警察に事前申請を行うことで、路上駐車が可能になる制度もありますが、駐車場所の制限や、申請と更新の手間などの問題もあり、他の自治体でも事業者やヘルパーの困りごととして声が上がっていました。刈谷でも、訪問サービスの利用者は十年前と比較して二倍近くになっており、今後駐車場問題が深刻化する懸念があります。

公共施設はもちろん、ドラッグストアやスーパー、ご家庭で余裕のある駐車場など、地域の皆様にお願いをして、訪問サービスを提供する際に車を駐車できるようにしてもらえないか。地域のつながり、共助で介護を支えていけるようにしたい、これが私の提案です。

今後増える訪問サービスに対する備えを

市からは、安定的なサービス提供のためには、駐車場の確保も大切な課題であるとの認識が示されました。訪問サービス利用者の増加というすでに想定している将来に対し、できる限り早期に備えられるよう、今後働きかけていきます。

あの日たまたま出逢い、介護問題について学ぶ機会をくれたTさん。まだ大きな前進とは言えないものの、あなたの切実な想いは、確実に議会の場に届いています！

部活っていいよね スポーツっていいよね

子どもも大人も運動不足？

愛知県の小中学生の体力・運動能力は、全国でのレベルがご存じでしょうか。なんと男女ともにワーストワンかつ。コロナ禍で、大人も体を動かす場や機会が減ってしまいました。このような状況下で、これまで重要かつ様々な役割を担ってきた、中学校部活動の地域移行なども迫っています。これらの課題を踏まえ、刈谷に住まう子供や大人の心身の健康維持・増進、成長機会、人との交流機会となる、地域スポーツの振興に向けた質問をしました。

刈谷らしい、部活動地域移行とは

刈谷市は、企業スポーツチームのOBやOG、企業内で文化部活動をされている方、地域の少年団やボランティア団体で活躍されている方など、部活動地域移行に際して必要不可欠な人的リソースのポテンシャルは高いと思います。しかし、いざ学校部活動に協力しようと思っても、ニーズのすり合わせ、トラブルが起きた際の対応、報酬など、学校と学校外をつなぎ、交通整理を行ってくれる人・機関なしでは動きづらいでしょう。地域の強みを活かすためにも、スポーツ庁のガイドラインで言う、コーディネート的な役割を置くことが必要だと考えます。

地域人材の力を借りて、土日から

答弁では、コーディネーターの果たす役割は大きい、という市の考え方が示されましたので、具現化に向けて、適材適所の人員配置と予算の確保を要望しました。

また、現在刈谷市では、部活動の形を維持しつつ、地域の方に外部指導者として部活動の指導に携わってもらう取り組みが始まっています。今後の方向性としては、まずは土日の部活動を地域移行できる体制について、検討を進めるとのことです。

教員の負担軽減は急務ですが、子供の成長や仲間とのかけがえのない経験・絆づくりの機会をどう作っていくか、先生方の悩みは尽きないでしょう。部活動地域移行が、子供たちのやりがいや成長の新たな形、地域のつながりが強くなるポジティブなきっかけとなるよう、私も知恵を絞りたいと思います。

体育館の予約が取れない！

刈谷市内の学校体育館はいつも予約がいっぱいで、みんながスポーツや交流ができる場を提供したい、と思って活動されている方々にとって、悩みのタネになっています。中学校体育館の抽選倍率は平均でも三倍を超えています。

学校体育館予約の利便性向上や稼働率の向上により、地域スポーツの盛り上げをサポートしたいとの思いで、この課題を取り上げました。

利用者に聞いてみると、予約倍率がどれくらいなのかも公開されていないので分からない、キャンセル待ちの制約が大きいなどの声。予約システムで予約倍率を見えるようにし、より倍率の低い施設や日程を選択できるようにすること、現状のキャンセル待ち運用の柔軟化・システム化を提案しました。

抽選後の空き枠予約、一歩前進

抽選後にキャンセルが出た場合などの空き枠の予約期間は、これまで前月の8日から10日でしたが、来年度から5日間延長して、15日までとさせていただけることになりました。

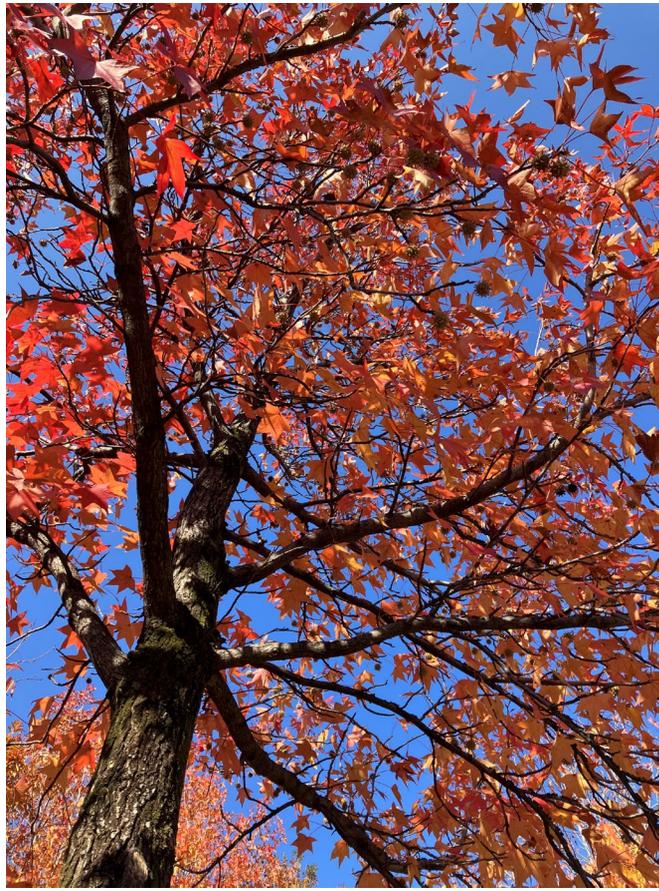
残念ながら、倍率見える化やキャンセル待ち機能の追加は現行システムでは困難とのことですが、予約システム更新時などのタイミングで導入を検討いただくことになっています。



ボランティアなどで活かせるかな、と興味で取得した資格を活用し、先日ヨガ講座をやらせていただきました。新しい挑戦をするってワクワクしますね。



上／西三河初のクラフトビール醸造所、KARIYA 75 BREWING。ミニトマトの劣化品を活用して作った商品。
右／ミササガパークの紅葉。WAFCAチャリティーウォーキング中に撮った一枚。



2023年
オレンジの女

かりや、おもひで

刈谷市に引っ越して約一年。
日々の生活で見つけた刈谷の魅力や
思い出を、2023年の振り返りとして。



左上・右上／刈谷市美術館、和田誠展の作品。大好きなカーネルサンダースのポスターも。（正確にはオリジナルチキンが大好きです。）興味深いアーティストの企画展示が多いのでオススメです。
左／刈谷市に引っ越した日の愛猫のび太と刈谷の空。刈谷は空も広く、夕陽が美しい日が多いように感じています。

[お詫び]

ORANGE PRESS は、年間4回の発行を予定しています。前号にて、12月、3月、6月議会後の冊子は、新聞折り込みチラシにて配布する旨を記載しましたが、郵送に変更となりました。紙面でのご連絡となったこととお詫び申し上げます。日々の活動はSNSでも発信しています。是非フォローをお願いします！DMにてご相談も賜ります。

Facebook



X

